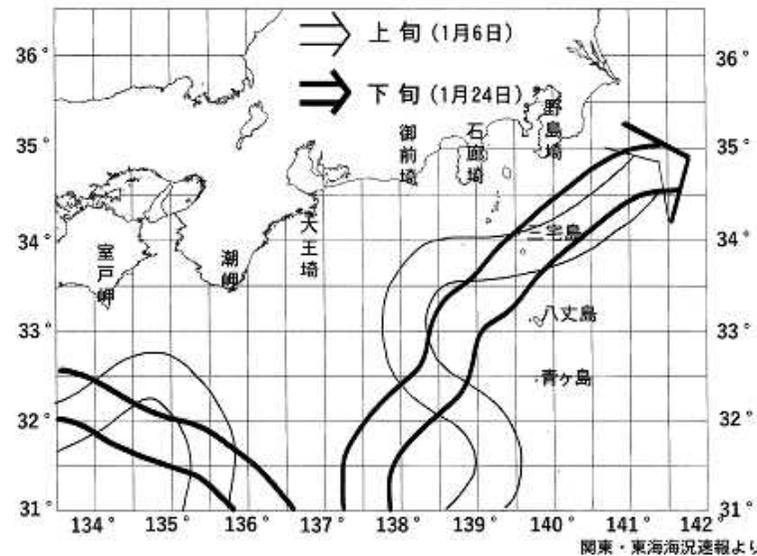


漁海況月報

令和7年1月1日

No. 1 ~1月31日

静岡県水産・海洋技術研究所
(電話 054-627-1815)
静岡県水産・海洋技術研究所 伊豆分場
(電話 0558-22-0835)



1月定地水温の旬平均値(°C) (下段は平年値*からの偏差)

期間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津
上旬	15.3	16.0	15.7	16.8	15.2	15.5
	-0.1	-0.1	0.0	1.1	-0.2	0.2
中旬	14.7	15.5	15.6	16.3	15.0	15.0
	-0.1	0.0	0.3	1.1	0.1	0.1
下旬	14.8	15.6	15.5	16.5	15.2	14.5
	0.4	0.5	0.7	1.8	1.0	0.0
月	14.9	15.7	15.6	16.5	15.1	14.9
	0.1	0.2	0.4	1.4	0.3	0.0

*平年値：過去30年(平成3年～令和2年)の平均値

【黒潮流路】

1月を通じてA型で、大王崎沖で大きく離岸した後、上旬～中旬は駿河湾沖まで、下旬は三宅島周辺まで北上する流路となった。

上旬は大王崎沖で大きく離岸し、大王崎沖30.0°N付近から駿河湾沖34.0°NまでS字状に北上した後東進し、三宅島付近を通過して北東に流去した。暖水波及が駿河湾沖の黒潮屈曲部から熊野灘、遠州灘に向けて、石廊崎沖の黒潮北縁から大島西水道に向けて見られた。

中旬は大王崎沖で大きく離岸し、大王崎沖29.5°N付近から駿河湾沖34.0°Nまで北上した後東進

し、三宅島付近を通過して東北東に流去した。暖水波及が駿河湾沖の黒潮屈曲部から熊野灘、遠州灘に向けて見られた。

下旬は大王崎沖で大きく離岸し、大王崎沖29.0°N付近から三宅島付近34.0°Nまで北東に進み、北東に流去した。

【沿岸域水温】

上旬は曇見で「やや高め」、それ以外の地点で「平年並み」であった。中旬は曇見で「やや高め」、それ以外の地点で「平年並み」であった。下旬は伊東、焼津で「平年並み」、稲取、下田、沼津で「やや高め」、曇見で「高め」であった。

【竿釣カツオ】

1月の県内主要5港(沼津、清水、焼津、小川、御前崎)における近海及び沿岸竿釣り船によるカツオの水揚げはなかった(前年同月の水揚げなし)。

【定置網】

伊豆半島東岸大型定置網7か統(伊豆山、古網、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津)の水揚量は123.8トンで、前年(109.8トン)の1.1倍、平年(254.7トン)の49%であった。また、1か統当たりの水揚量は17.7トン(前年:15.7トン、平年:36.4トン)であった。水揚量の多い漁場は、古網漁場(38.4トン、マルソウダ、メアジ、さば類)、次いで伊豆山漁場(32.6トン、さば類、マルソウダ、メアジ)であった。

多獲された魚種の水揚量は次頁(表)のとおりで、マルソウダは33.4トン、前年比77%、平年比6.7倍であった。さば類は28.9トン、前年比2.7倍、平年比49%であった。水揚げされたさば類のうち、マサバは13.1トン、前年比2.3倍、平年比97%、ゴマサバは15.8トン、前年比3.2倍、平年比31%であった。メアジは18.6トン、前年比3.7倍、平年比7.7倍で、昭和62年以降、最も水揚量が多かった。スルメイカは13.4トン、前年比2.1倍、平年比26%であった。メアジは11.8トン、前年比1.1倍、平年比1.6倍であった。その他の魚種については、クサヤモロ(1.1トン、平年比52.2倍、前年は水揚げ無し)が平成9年以降、ムロアジ(1.3トン、平年比20.9倍、前年は水揚げ無し)が昭和57年以降、最も水揚量が多かった。

多獲された魚種の主な漁場は、以下(表)のとおりで、各漁場の水揚量の割合は、マルソウダでは古網漁場が37%(12.5トン)、伊豆山漁場が20%(6.8トン)、さば類では伊豆山漁場が38%(11.0トン)、古網漁場が21%(6.0トン)、北川漁場が16%(4.7トン)、川奈漁場が16%(4.6トン)、メアジでは古網漁場が45%(8.5トン)、伊豆山漁場が19%(3.6トン)、スルメイカでは富戸漁場が38%(5.1トン)、古網漁場が23%(3.0トン)、谷津漁場が20%(2.7トン)、メアジでは伊豆山漁場が55%(6.5トン)、古網漁場が39%(4.6トン)であった。

*平年：昭和57年～令和5年の平均値

多獲された魚種の水揚量と主な漁場

魚種	水揚量(トン)	前年比	平年比	主な漁場
マルソウダ	33.4	0.77	6.68	古網、伊豆山
さば類	28.9	2.73	0.49	伊豆山、古網、北川、川奈
メアジ	18.6	3.74	7.69	古網、伊豆山
スルメイカ	13.4	2.10	0.26	富戸、古網、谷津
メアジ	11.8	1.07	1.62	伊豆山、古網

【サバたもすくい・棒受網】

小川港所属の棒受網漁船は月を通じてたもすくい漁業主体で操業し、漁場は月を通じて大島千波に形成された。水揚量はゴマサバ66トン（前年同月比61%）であり、1隻当たりの水揚量はゴマサバ7.3トン（前年同月比94%）であった。マサバはゴマサバの漁獲に混じる程度であった。

平均単価は、マサバは216円/kgで前年同月（245円/kg）を下回った。ゴマサバは218円/kgで、前月（218円/kg）、前年同月（217円/kg）並であった。

漁獲物の体長組成は、ゴマサバは36cmにモードを持つ単峰型を示した（マサバはデータ無し）。

小川港 さば類（たもすくい・棒受網漁業）水揚量

期 間	水揚量(トン)		水揚 日数	水揚 隻数	水揚/隻(トン)		平均単価(円/kg)		漁 場
	マサバ	ゴマ サバ			マサバ	ゴマ サバ	マサバ	ゴマ サバ	
R7年1月上旬	-	-	0	0	-	-	-	-	-
中旬	-	15	2	3	-	4.9	-	250	大島千波
下旬	0	51	3	6	0.0	8.6	216	209	大島千波
R7年1月計	0	66	5	9	0.0	7.3	216	218	大島千波
R6年1月計	1	109	8	14	0.0	7.8	245	217	大島千波
R5年1月計	4	424	14	24	0.2	17.7	328	213	大島千波・利島

*水揚量については、旬ごと、魚種ごとに四捨五入しているため、月計と一致しないことがある。

*表中の「-」は水揚げがなかったことを示す。

【シラス船曳網】

県内7港における1日1か統当たりの水揚量は、遠州灘（新居、舞阪、福田、御前崎）が275kg、駿河湾（吉田、用宗、由比）が94kgであった。平均水揚量は161kgで前年同月（164kg）の98%、平年同月（過去5か年平均：136kg）の1.2倍であった。また、総水揚量は46.0トンで前年同月（46.5トン）の99%、平年同月（32トン）の1.5倍で、前年並となり平年同月を大きく上回った。平均単価は1,651円/kgで前年同月（963円/kg）の1.7倍、平年同月（1,248円/kg）の1.3倍で、前年及び平年同月を大きく上回った。

*平年：過去5か年（令和元年～令和5年）の平均値

7港のシラス水揚量

漁 港		水揚量(トン)	延日数	延統数	平均水揚量(kg/統)	平均単価(円/kg)
遠 州 灘	新 居	-	-	-	-	-
	舞 阪	12.8	2	44	292	1,527
	福 田	6.8	2	35	195	1,461
	御前崎	9.5	3	27	352	1,684
駿 河 湾	吉 田	7.7	4	97	79	1,986
	用 宗	8.5	4	124	111	2,082
	由 比	0.7	3	18	38	2,450
R7年1月計		46.0	18	286	161	1,651
R6年1月計		46.5	17	283	164	963
R5年1月計		52.6	23	303	174	1,821

*各港の数値は四捨五入しているため、各港合計と月計の値は一致しない場合がある。

【まき網（いわし類）】

マイワシ、カタクチイワシは、小川港、伊東港、沼津港、静浦港では水揚げがなかった。なお、伊豆半島東岸の大型定置網7か統でもマイワシ、カタクチイワシは水揚げがなかった。

【調査船駿河丸の動向】

1月 9日	～	1月 10日	地先定線観測調査	(2日間)
1月 14日	～	1月 15日	いわし類卵稚仔分布調査	
1月 17日			流況調査	(1日間)
1月 20日	～	1月 21日	さば類撒き餌調査	(2日間)
1月 23日			MaOI マイクロプラスチック調査	(1日間)
1月 27日	～	1月 29日	サクラエビ音響・卵幼生調査	(3日間)

静岡県水産・海洋技術研究所のホームページ

トップページ…………… <https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>

海洋情報のページ…………… <https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/O1ocean/>

右のQRコードから、人工衛星による観測情報、県内沿岸水温情報、関東・東海海況速報等を見ることができます。

